

令和3年度

第46回 中学校体育授業研究会



埼玉県中学校体育連盟



目 次

挨拶	埼玉県中学校体育連盟会長	1
1	鴻巣市立川里中学校 授業内容・指導者一覧	3
	活動の様子（写真）	4
	授業について〔球技（バレーボール）〕	5
	研究協議のまとめ	6
2	新座市立第二中学校 授業内容・指導者一覧	7
	活動の様子（写真）	8
	授業について〔球技（ハンドボール）、ダンス（現代的なリズムのダンス）〕	9
	研究協議のまとめ	10
3	所沢市立所沢中学校 授業内容・指導者一覧	12
	活動の様子（写真）	13
	授業について〔球技（サッカー）、ダンス（創作ダンス）〕	14
	研究協議のまとめ	15
4	吉見町立吉見中学校 授業内容・指導者一覧	17
	活動の様子（写真）	18
	授業について〔陸上競技（ハードル走）〕	19
	研究協議のまとめ	20
5	秩父市立高篠中学校 授業内容・指導者一覧	21
	活動の様子（写真）	22
	授業について〔球技（サッカー）〕	23
	研究協議のまとめ	24

6	深谷市立花園中学校 授業内容・指導者一覧	26
	活動の様子（写真）	27
	授業について〔武道（柔道）、球技（バレーボール）〕	28
	研究協議のまとめ	29
7	神川町立神川中学校 授業内容・指導者一覧	31
	活動の様子（写真）	32
	授業について〔武道（剣道、柔道）〕	33
	研究協議のまとめ	34
8	行田市立西中学校 授業内容・指導者一覧	36
	活動の様子（写真）	37
	授業について〔陸上競技（長距離走）〕	38
	研究協議のまとめ	39
9	三郷市立瑞穂中学校 授業内容・指導者一覧	40
	活動の様子（写真）	41
	授業について〔陸上競技（短距離走・リレー）〕	42
	研究協議のまとめ	43
10	さいたま市立三橋中学校 授業内容・指導者一覧	44
	活動の様子（写真）	45
	授業について〔機械運動（マット運動）〕	46
	研究協議のまとめ	47
11	学習指導案	49
	○武道（剣道）	50

挨拶

埼玉県中学校体育連盟

会長 高橋 利明

第46回目を迎えた中学校体育授業研究会は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が心配されましたが、県内10地区で参加者の制限を行う等の工夫をしながら開催していただきました。県中学校体育連盟の中核をなす事業の一つとして、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会をはじめ各教育事務所、県立総合教育センター、関係市町村教育委員会の御支援、御協力のもとに開催されましたこと、深く感謝申し上げます。また、県内各支部中学校体育連盟の先生方並びにそれぞれ研究テーマを掲げた授業を提供していただきました県内10校の校長先生をはじめとした諸先生方に心より御礼申し上げます。

本年度から全面実施となった新学習指導要領では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが求められています。したがって、この中学校体育授業研究会における研究活動の成果を各学校で生かすとともに、小・中・高が連携・協力していかなければならないと考えております。

結びに、資料を作成された先生方並びに本研究会の運営に御尽力いただきました各支部中体連の先生方、そして、適切かつ丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課、各教育事務所、県立総合教育センター、さいたま市教育委員会、関係市町村教育委員会の先生方に衷心より感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

鴻巣市立川里中学校

単 元 名

・球 技 (バレーボール)

授 業 者

横 田 泰 紀

齋 藤 絵 梨

司 会 者

齋 藤 絵 梨 (鴻巣市立川里中学校)

記 録 者

野 原 瑛 汰 (鴻巣市立川里中学校)

指 導 ・ 助 言 者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

埼玉県教育局南部教育事務所指導主事

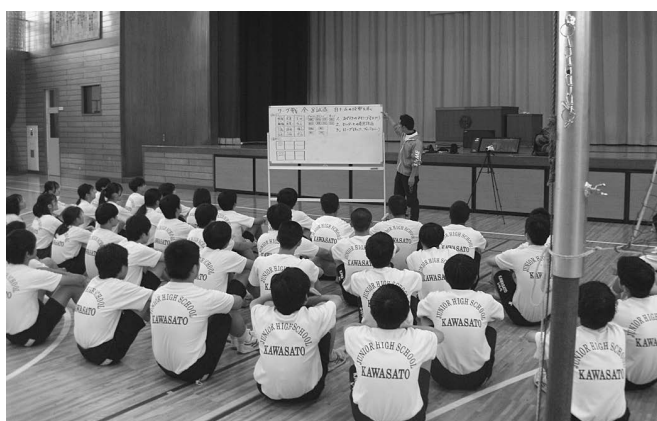
鴻巣市教育委員会教育部学校支援課指導主事

内 藤 将 智

熊 田 大 樹

五 十 嵐 聡

《活動の様子》



鴻巣市立川里中学校

単元名	球 技 (バレーボール)
指導者	横田 泰紀 齋藤 絵梨
単元目標	<p>○運動の特性を理解し、意図的な攻撃を組み立ててゲームができるようにする。 [知識及び技能]</p> <p>○ゲームを分析し課題や相手チームに応じた作戦を導き出すことができるようにする。 [思考力、判断力、表現力等]</p> <p>○役割を果たしながら協力してゲームを行い、進んで学習することができるようにする。 [学びに向かう力、人間性等]</p>
本時の目標	<p>相手チームに応じた作戦を立て、意図的な攻撃を組み立ててゲームをすることができるようにする。 [知識及び技能]</p>
授業内容	<p>導入 (10分)</p> <p>1 用具の準備</p> <p>2 集合・整列・挨拶・健康観察</p> <p>3 体幹トレーニング・ストレッチ</p> <p>4 グループ練習</p>
	<p>展開 (35分)</p> <p>5 ゲームの目標の確認</p> <p>6 リーグ戦1</p> <p>7 ミィーティング</p> <p>8 リーグ戦2</p>
	<p>整理 (5分)</p> <p>9 集合、整列</p> <p>10 学習の振り返り</p> <p>11 整理運動</p> <p>12 挨拶、解散</p>

第46回南部教育事務所管内（北部地区）中学校体育授業研究会

球技「バレーボール」

「生徒の意欲と運動能力を引き出す体育授業」

1 授業について

- ・今回の授業では、競技に必要な動きや身体能力、あるいは筋力の向上を図った。特に、体幹力と垂直跳びを強化した。ジャンプ力を強化するトレーニングや体幹トレーニングを入れて毎回の授業で向上を狙った。
- ・体幹、ジャンプ、基礎練習については、主運動につなげるという意識を定着させるように工夫した。
- ・メインゲームでは、キャッチバレーボールを行った。4人制で行い、ポジションは、セッター、アタッカー、レシーバーの役割を設定した。場づくりは、バドミントンコートで、支柱に延長カバーをつけて、実際のネットの高さに近い状況で行った。
- ・ボール操作のレベルを一段階あげ、キャッチしていいのは、1回目のファーストタッチだけにして、その後は、セッターのトスに合わせてスパイクを打つルールにした。なお、スパイク時の助走も専門のステップを指導してスパイクを行った。
- ・授業展開で意識したことは、教えないで気づかせる指導を中心に行った。そのために、説明をするのではなく、発問を用意し、生徒に考えさせてから活動させるという授業展開を行った。例えば、「今から、2つの助走をします。スパイク助走の跳ぶ瞬間のつま先を見なさい。どちらが正しいと思いますか」など。考えさせてから練習させることで、気づく大切さをより鮮明にインプットした。
- ・アンケート結果後、ほとんどの生徒が、体幹トレーニングや基礎練習が実際のバレーボールのプレーにつながっていると感じていた。

2 研究協議

- ・ボール操作を難しくしたので、昨年度行ったクイック・ブロード・時間差などの攻撃パターンの習得まで授業を展開できなかった。
- ・次に何をするのか、よく理解して動いていた。
- ・教師の説明や指示がなくても生徒の動きが早かった。
- ・授業規律が確立していてよかった。
- ・話し合い活動のときの生徒の積極性がよかった。
- ・すべての生徒がゲームを楽しむことを超えて、白熱してゲームに取り組んでいた。

3 指導・講評

- ・県のスローガンに沿った体育授業であり、力いっぱい運動していた。
- ・運動量の確保がとてよかった。
- ・授業内で教師が生徒に関わる回数を増やしていく必要がある。例えば、よい動きやよいプレーをした時などの称賛、あるいは、配慮を要する生徒への声かけなど増やしていけるとよい。
- ・体育教師として学習指導要領をもっと熟知するよい。
- ・指導案作成では、学習指導要領を踏まえて計画づくりをするとさらによい。
- ・体育館の掲示物も評価や成績に関わることは、慎重に掲示するようにした方がよい。

新座市立第二中学校

単 元 名

- ・球 技 (ハンドボール)
- ・ダンス (現代的なリズムのダンス)

授 業 者

高 橋 立
田 口 翔 三

研究協議会

- ・第1分科会 [球技における ICT 機器の効果的な活用について]
- ・第2分科会 [ダンスにおける ICT 機器の効果的な活用について]

司 会 者

- ・第1分科会 鈴木直哉 (新座市立第二中学校)
- ・第2分科会 加藤大祐 (新座市立第二中学校)

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事
埼玉県教育局南部教育事務所指導主事
県立総合教育センター指導主事兼所員
新座市教育委員会学校教育部教育支援課副課長兼指導主事

内 藤 将 智
熊 田 大 樹
野 中 拓 二
長谷川 久 和

《活動の様子》



新座市立第二中学校

単元名	球 技 (ハンドボール)
指導者	高 橋 立
単元目標	<p>○ハンドボールの技術の名称や行い方を理解するとともに、基本的なボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前で攻防することができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○ハンドボールに積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加しようとする事、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	○パスを受けるためにゴール前の空いている場所に動くことができるようにする。 【知識及び技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 場の設定 2 集合、挨拶、健康観察 3 準備運動、補強運動、ストレッチ 4 感覚づくりの運動 (パスアップ) <ul style="list-style-type: none"> ・対面パス ・ランニングパス (2人組) 5 本時のねらい・内容確認 6 ゴール前3対2 7 ゲームⅡの準備 8 ゲームⅡ 9 片付け・集合・健康観察 10 整理運動 11 学習の振り返りとまとめ 12 次時の予告 13 挨拶

単元名	ダンス (現代的なリズムのダンス)
指導者	田 口 翔 三・緑 川 祐 子
単元目標	<p>○ダンスの特性や由来、表現の仕方、関連して高まる体力について理解するとともに、現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようと、交流などの話し合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする事などや、健康・安全に気を配ることができるようにすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	○提示された踊りのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 挨拶、健康観察 3 W - UP <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・慣れのダンス 4 本時のねらいと内容の確認 5 自チームの動画と課題の確認 6 交流グループの動画の確認と修正箇所のアドバイス交換 7 踊りの修正 8 整理運動 9 健康観察 10 学習の振り返り・まとめ 11 次時の予告 12 挨拶・片付け

第46回 南部教育事務所管内（南部地区）中学校体育授業研究会

球 技「ハンドボール」

第1分科会

「球技におけるICT機器の効果的な活用について」

1 授業について

- ・生徒は、ボールを持って良く動くことができていた。
- ・チームリーダーをつくり、意欲を高めたり、自覚をもたせたりすることができた。
- ・ねらいに沿った話し合い活動ができていた。具体的に話し合い、振り返る活動を行うことができた。

2 研究協議

- ・生徒が一生懸命取り組んでいて、とても良かった。
- ・空間の使い方に工夫が見られた。生徒は周りをよく見て動くことができていた。
- ・話し合い活動の場面では、作戦に対して具体的なアドバイスができていた。
- ・集合する場面を極力減らして授業を行っていた。

3 指導講評

- ・「やってみたいな」、「達成したいな」など、何のためにしているのかが明確になることで「主体的」な活動につながっていく。
- ・3年間の見通しや、それぞれの学年で目指す内容をしっかり把握すると良い。
- ・教師が立てたねらいで、子どもが実際の動きとしてイメージできることが大切である。
- ・それぞれの体力、体調、目標によって、授業内容の工夫があると良い。
- ・指導する観点を意識して、たくさんの視点を持つことが必要。競技の苦しさではなく、楽しさや魅力を伝えていく。
- ・種目に入る前に必ず学習指導要領解説をしっかりと読み、根拠を持って運動に取り組めるようにしていくことが大切。

第2分科会

「ダンスにおける ICT 機器の効果的な活用について」

1 授業について

- ・1年生では体を大きく使ってダイナミックに踊ることをねらいとし授業を組み立てた。そのねらいをどのように伝えるべきかが難しく、教師自身の体や動画等工夫しながら伝えてきた。
- ・ダンスが嫌いな生徒もいるため、踊ることが楽しい、また踊りたいと思えるような授業を心がけた。
- ・生徒にねらいが伝わって大きく踊ろうという意思が見えて良かった。
- ・振り返りで生徒から「メリハリ、ダイナミック、空間の使い方」に関する感想がでたことが成果。
- ・ICT機器を活用しながらの運動量の確保が難しかった。
- ・今後は効果的な話し合いをしつつ、活動量の確保ができるよう工夫していきたい。

2 研究協議

「ダンスにおける ICT 機器の効果的な活用について」

- ・今回、1年生で規定のダンスを踊るのではなくグループで創作して踊ったためレベルの高い教材であったが、生徒の実態を見ると適切な教材であった。授業で様々な知識を身につけていたのもとても良かった。
- ・時間の確保が課題ではあるが、ICTの活用の観点ではこれからのために必要な時間である。
- ・ICTを活用することによって活動そのものの低下は避けたい。今回はICTが活動の妨げになっていなかった。
- ・男女共習の在り方について考えるべき。男女共同のチーム編成や男女でアドバイスをしあうのも実態に応じて行えると良い。
- ・何の知識もない状態で思考・判断に関わる話し合いはできない。効果的な話し合いをするために、話し合いに至るまでの指導が必要。
- ・本時までの活動を通してダイナミックに踊れるようになったグループが増えたのは活動の積み重ねのおかげ。
- ・生徒の振り返りで「メリハリ」という言葉が出たときに教師が言い換えるのではなく、生徒にもう一度質問して生徒の言葉で説明できたらもっと良かった。
- ・本時の活動の中で、次時の課題まで見つけられているグループがあり、これまでの指導の成果を感じた。
- ・ダイナミックと空間の使い方の2つの課題をどちらに的を絞るかばやけているグループがあった。「良い動き」は生徒と教師とは違うため、共通認識させる必要がある。言葉やフレーズの選び方をもっと視点に合わせていけると良かった。
- ・アドバイスメッセージをもっと活用できたら良かった。自由に3語使って組み合わせるなどうまく活用できたら良い。
- ・ICTの別の活用法としてペアで思いついた動きを録画するのも良い。グループだと得意な生徒だけの意見で進んでしまうが、ペアであれば1人1人に力がつくのでは。

3 指導講評

- ・思考力・判断力・表現力の評価は本時行うものだが本時までの指導で評価も決まってくる。運動のイメージをつかませる動感言語を今日まで沢山使って指導してきた成果。教師がどれだけ伝えられるかがこれからにつながる。
- ・ICTを毎日使っている割合が7割の現在、使い方も次のステージに進むべきである。(課題を配布したり提出したり)技能だけでなく、思考力・判断力・表現力を育むためのツールとしても効果的である。技能の向上のための活用でないのが良かった。
- ・県の課題は「運動好きの生徒を増やす」である。体力は高いが運動好きの生徒が少ない。踊りって楽しいと思わせる授業であるかという視点で今回授業を見させてもらった。苦手な生徒でもできるような工夫、動きを扱えると良い。
- ・ICTの活用レベルが高い。知識・技能を育むために録画して繰り返し見られることを期待していたが新座二中はさらに先を行っていた。思考力・判断力・表現力を育むために作戦会議や他チームとのアドバイス等に活用できる。
- ・本時のねらいの評価の仕方を明確にすべき。今回の授業では「踊れた」「課題が解決できた」が評価ではない。ICTを活用してグループで2つのアドバイスでは全員の評価ができない。学習カードに記入する項目があれば個人の評価ができる。
- ・分散登校やクラス数の兼ね合いもあると思うが、単元計画のダンスが4時間と少ないのがもったいない。3つ全てを取り扱う必要もない。また林間学校でフォークダンスを行うのを単元計画に入れるのではなく、学習したことを林間学校に活かすのが望ましい。

所沢市立所沢中学校

単 元 名

・球 技 (サッカー)

・ダンス (創作ダンス)

授 業 者

石 間 洋 介

高 橋 洋 昭

落 合 和 香 奈

三 宅 純 子

研究主題

「関わりを大切にして、“伝える力”を高める体育授業の在り方」

～思考力・判断力・表現力の育成を通して～

司 会 者

杉 野 琢 磨 (川越市立福原中学校)

古 口 充 子 (所沢市立南陵中学校)

記 録 者

小 林 達 博 (所沢市立山口中学校)

中 井 愛 (所沢市立山口中学校)

指 導 ・ 助 言 者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

埼玉県教育局西部教育事務所教育支援担当指導主事

所沢市教育委員会スポーツ振興課指導主事

埼玉県中学校体育連盟アドバイザー埼玉大学准教授

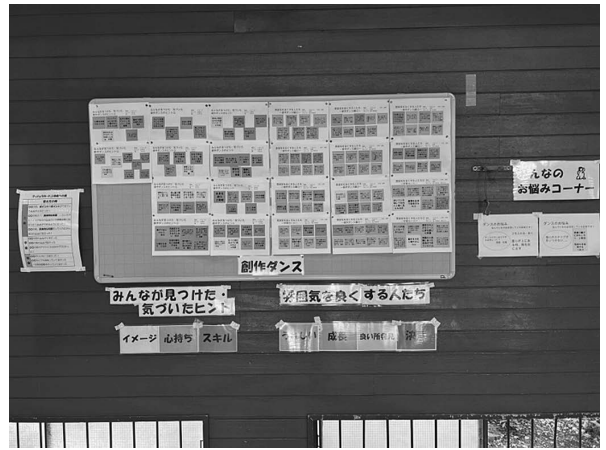
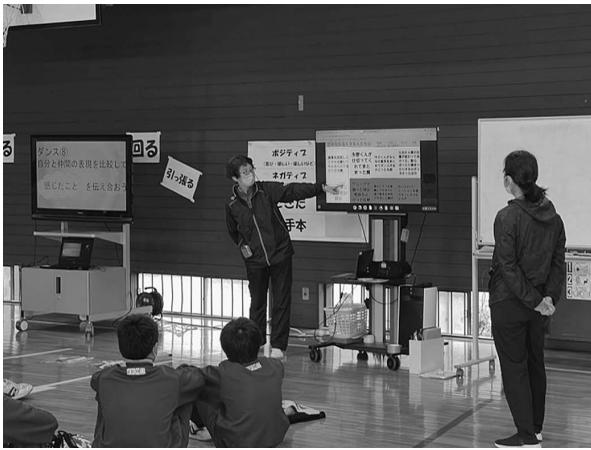
内 藤 将 智

東海林 大

貴 志 健 司

石 川 泰 成

《活動の様子》



所沢市立所沢中学校

単元名	球 技 (サッカー)
指導者	石 間 洋 介・高 橋 洋 昭
単元目標	<p>(1) サッカーの技術の名称や行い方、運動観察の方法などを理解するとともに安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防できるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【思考力・判断力・表現等】</p>
本時の目標	<p>作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 【思考力・判断力・表現力等】</p>
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 (ウォーキングアップドリル) 5 ねらい、課題の確認 6 作戦タイム 7 ゲーム 3分ゲーム×3本 8 集合・整理運動・健康観察 9 授業の振り返り、まとめ 10 次時の予告 11 挨拶・片付け

単元名	ダンス (創作ダンス)
指導者	落 合 和 香 奈・宮 宅 純 子
単元目標	<p>(1) ダンスの名称や用語、表現のしかたなどを理解するとともに、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、交流や発表をできるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、1人1人の違いに応じた表現や役割を大切にしようしたり、健康・安全を確保したりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	<p>選択した踊りの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】</p>
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・挨拶・健康観察 2 ダンスウォームアップ 3 本時のねらいと学習内容の確認 4 グループで表現したい中心の動きを選び、イメージを合わせ動きにする 5 グループごとに見せ合う。 6 グループごとに小作品を発表する。 7 授業の振り返り、まとめ 8 挨拶・解散

第46回 教育事務所管内（入間地区）中学校体育授業研究会

第1分科会

「球技（サッカー）」

1 授業について

- ・先行授業より分析について思考を重ね、今回の授業ができた。生徒も活発的に楽しく進めることができたが、運動量の確保の観点では、話し合い活動が長くなると難しい部分がある。
- ・サッカーにおける「空間を捉える」感覚を養うことの難しさを感じている。
- ・サッカー経験者と未経験者が混じる環境で、活動は良かったが、サイドへの発展や空間を使う、見つけることがあまり本日の授業では見受けられなかった。
- ・生徒の緊張もあったが、それでももう少し思考・判断の部分が見えると良かった。
- ・サッカーの技術の向上、特に女子生徒へのアプローチが難しい。

2 研究協議（指導者・司会・記録のみの参加）

- ・研究のテーマ「グッジョブカード」「学習カード」の使い方について
→学習カードに対しては、教員が積極的にコメントを残し、生徒とのやりとりを大切にしている。グッジョブカードについては、体育授業の中で本時のねらいを書かせ、生徒が交換するような活動を取り入れる。

3 指導講評

- ・研究主題について「関わりを大切に」という部分では、コロナ禍の影響もあり、生徒同士の関わりに消極的になっていないか心配であったが、所沢中の研究で大切にしていることを感じた。
- ・ねらいのゴールを本時のテーマを話しているときに伝えてあげると生徒もわかりやすかったのではないかな。
- ・学習カードを授業内で書かせると、生徒の変容が見える表現が残りやすくなる。授業後では、生徒の授業の印象が薄れていってしまいため、もったいない。

第2分科会

「ダンス（創作ダンス）」

1 授業について

- ・自己肯定感を高めたい
- ・表現することをためらい、控え目な生徒が多い。
- ・アドバイスを2回とったことが良かった。
- ・ねらいをくみ取って動いていた。
- ・内容としてはとても「欲張り」と感じる。
- ・思考力、判断力を評価して「見とる」場面について、難しさを感じる。

2 研究協議

- ・もう少し心拍数が上がるような動きがあっても良かった。
- ・雰囲気づくりとして、ウォーミングアップダンスが有効。
- ・本時のねらいに対しての導入なので、授業に対してどうなのか。「正しいか、正しくないか」ということではなく、どう入ったら子どもたちがやりやすいのかを考えることが大切。
- ・心、体の解放のための導入。
- ・まとめを子どもたちの言葉で（自分達の授業の改善にもつながる）
- ・自分達の表現したいものを伝える → 周りの班・人から見る側の思いを伝える、受け取り
- ・1時間の内容として、狙いを達成するのは難しいのでは？ → 3年間の組み立て+単元
- ・「魔王」からの感情は手法としてはどうだったか？
→他教科との関連があることから子どもたちも知っている曲である。
- ・どんなダンスをつくりたいか。これがしっかりしていることが大切。

3 指導講評

- ・雰囲気がとても良かった。T・Tの役割分担良かった。生徒への声かけが良かった（変化について多く声をかけていた）
- ・ダンスは学習規律が難しいが、約束事がきちんとある。
- ・3年間の積み重ねがあつてからの本時だった。
- ・アドバイスが具体的に言えている。
- ・「魔王」の使い方について。（切り取り方、変化について）
- ・グッジョブカードについて（何について、誰について書くのか）
- ・男女共習について。一緒にできる空間を！
- ・運動好きの子どもを増やしてほしい。
- ・「動く」楽しさ、「集う」楽しさ、「わかる」楽しさ、「伸びる」楽しさ

吉見町立吉見中学校

単 元 名

・陸上競技 (ハードル走)

授 業 者

三井倉 和 哉

研究協議会

司 会 者

木 村 真 一 (嵐山町立玉ノ岡中学校)

記 録 者

沼 英 恵 (鳩山町立鳩山中学校)

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

埼玉県教育局西部教育事務所指導主事

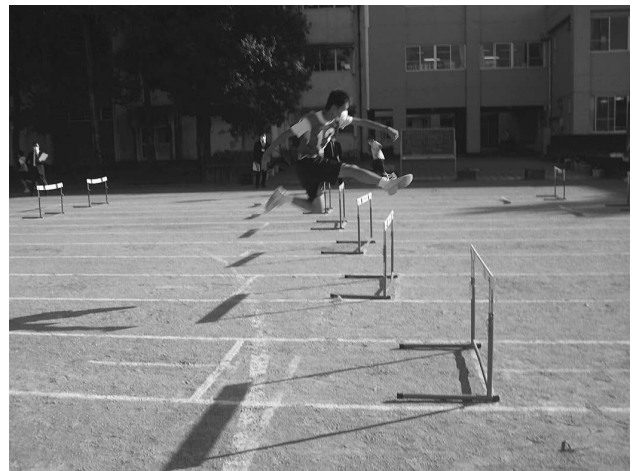
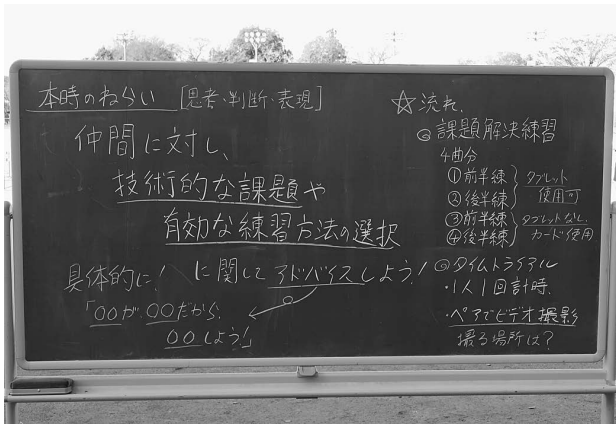
埼玉県立総合教育センター教職員研修担当指導主事兼所員

内 藤 将 智

東海林 大

野 中 拓 二

《活動の様子》



吉見町立吉見中学校

単元名	陸上競技（ハードル走）
指導者	三井倉 和 哉
単元目標	<p>(1) ハードル走の特性や技術の名称、ルールなどについて理解するとともに、リズムカルな走りから、滑らかにハードルを越すことで、記録を向上できるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 自己の課題を発見し、改善に向けた合理的な運動の取り組み方を工夫するとともに、仲間に対して、技術的な課題や、有効な練習方法の選択に関して指摘できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) ハードル走の学習へ積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助したり、励まし合ったり、ルールやマナーを守ったり、健康安全に留意しながら学習できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	<p>仲間に対し、技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して、アドバイスしよう。 【思考力・判断力・表現力等】</p>
授業内容	<p>導入（8分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 集合、挨拶、出席・健康観察 3 準備運動、基本動作 集団走、ダッシュ（トラック1周半） ペアストレッチ（クリアランス姿勢左右10回） 4 前時の振り返り
	<p>展開（35分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 本時のねらいと内容の確認 6 課題解決練習の方法とポイント、場所の確認 7 課題解決練習 ペア学習（練習者・助言者） 課題（リード脚、抜き脚、アプローチ）に応じて実践練習 8 記録計時 ペアの生徒がタブレットで撮影
	<p>整理（7分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 学習の振り返り、まとめ 10 整理運動 11 次時の予告 12 挨拶、片付け

第46回 比企地区中学校体育授業研究会

「陸上競技」(ハードル走)

1 授業について

- ・本時の授業は、男女別習で行った。男女共習が主だが、今回は、体の大きさや技能差を考慮してこのような形で行った。
- ・生徒の実態として、一生懸命、元気よく取り組める。新体力テストの結果をみると、体力面については、県平均より低い。そのため、今回のハードル走の取り組みは難易度が高い。スモールステップで苦手意識の克服、ペア学習を取り入れ課題解決を目指せるような授業の工夫を行った。
- ・走力向上を目標に、アップ時に集団走ダッシュを取り入れている。(活動量は増えるが、導入の時間が長くなってしまいうのが課題である。)
- ・記録計時の場面で、インターバルの調整や撮影場所の確認などをペアで話し合い決めさせた結果、時間がかかってしまった。あらかじめ設定しておくべきだった。
- ・ペアは、走力がある生徒と苦手な生徒が組めるよう設定した。苦手な生徒がアドバイスしやすいようにアドバイスカードやチェックシートを作成し、活用させた。

2 研究協議

柱① 思考力・判断力・表現力等の育成に向けた教材教具の工夫について
(ICTの効果的な活用について)

- ・タブレットに参考動画を入れておき、自分の動きと比較出来るようにする。
- ・定点カメラを設置し、とっている動画が遅れて見られるアプリ(追っかけ再生)などを活用し、自分の動きをすぐに確認できるようにしている。
- ・学習カードにペアからもらったアドバイスを書く欄を設けて、交流の場を増やしている。
- ・学年、種目によって、使いやすい教材教具を選択している。主に、学習カード、作戦カード、ホワイトボード、アドバイスカード、タブレットなどを使用している。
- ・保健の授業で、パワーポイントにまとめ、3クラス合同で画面共有をしながら授業を行っている。
- ・短距離の計測時に、スプリントタイマーというアプリを使用している。教員の人数が少なくても、複数の生徒を計測できるので便利。
- ・タブレットを外で使うときは、ジップロックにいれるなど工夫して使用している。

柱② 三観点の評価のつけ方について

- ・思考力・判断力・表現力等は、学習カードや話し合いの場面をみて評価をつけている。
- ・知識・技能をつける時、バランスが難しい。
- ・技能をつける際に評価規準(資質をみるような評価)が評価基準(タイムできるような評価)にならないようにする。

3 指導講評

- ・スポーツの見方、考え方、する・みる・支える・知るなど多様な関わり方があることを教えていくことが大切。
- ・ビブスの色によって課題を分けていた。課題によってどこで観察するといったのかを練習の段階から伝えられるとよかった。
- ・ICT活用は、どの場面での活用が有効かどうかを考え使用していく。(強制ではない。)
- ・思考や動きは消えてしまうものなので、ICTを上手に活用しながら、生徒の変容を見せていきたい。
- ・今回は、思考力、判断力、表現力の部分の表現力を見とる授業だった。今日は〇〇が課題で、〇〇を伝えられるといいという様な、ゴールを示してあげることで理解度が深まる。
- ・今日の授業の教員の役割は、走っている生徒ではなく、ペアの子の様子を見ていく。Cの子の手立てとして、どのようにアドバイスを伝えてあげればよいかアプローチしていく。
- ・思考力をまとめる(授業のまとめの振り返りの)時間をとれるとよかった。
- ・前時の振り返りから、本時のねらいをたてられてよかった。
- ・導入部分のペアストレッチ(クリアランス姿勢)は主運動につながる動きとなっていてよかった。
- ・三観点はバランス良く育成を目指していく。また、複数教員で評価をつける際は、つけ方が同じになるようにしていく。
- ・教員の指示が明確でテンポがよかった。
- ・苦手な子に対して、声をかけたり褒めたりすると運動好きの生徒になっていく。褒め方も結果だけでなく、過程をみてあげるとよい。

秩父市立高篠中学校

単 元 名

・球 技 (サッカー) 第2学年

授 業 者

大 野 彩

高 野 香 織

研究協議会

研究主題

「『学びに向かう力』の育成」～ICTを活かした指導方法の工夫

研究の柱

・「『体育授業の（球技）における効果的なICTの活用方法について」

司 会 者

・笠 原 裕 貴 （横瀬町立横瀬中学校）

指導・助言者

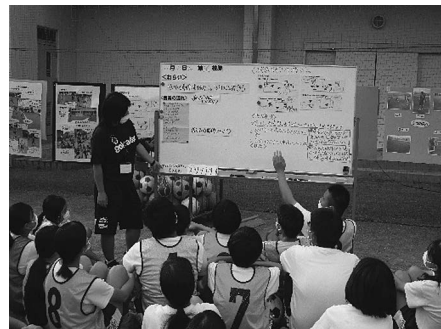
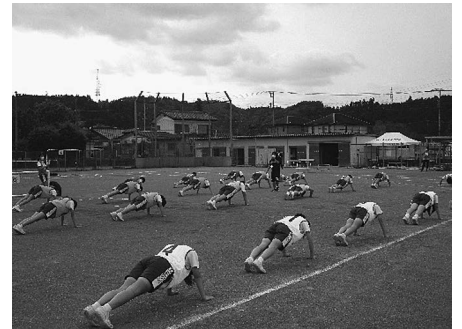
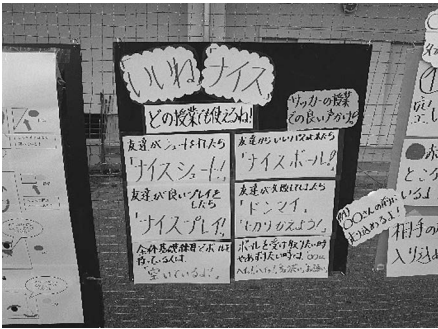
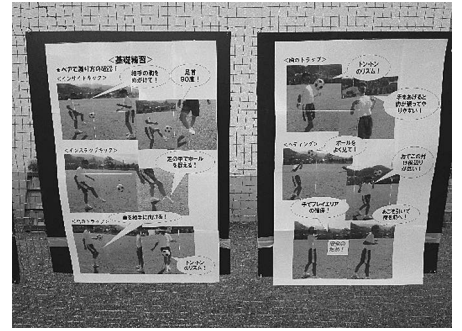
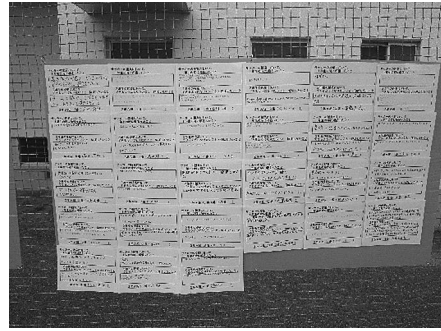
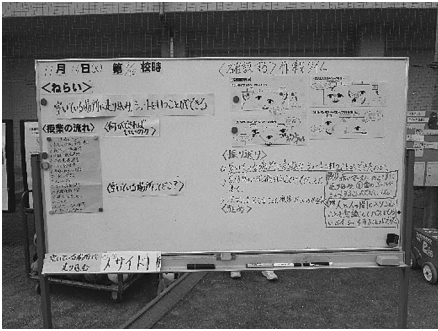
北 部 教 育 事 務 所 秩 父 支 所 指 導 主 事

橋 本 修 一

埼 玉 県 教 育 局 県 立 学 校 部 保 健 体 育 課 指 導 主 事

金 杉 博 美

《活動の様子》



秩父市立高篠中学校

単元名	球 技 (サッカー)
指導者	大野 彩 (T1) 高野 香織 (T2)
単元目標	<p>(1) サッカーの特性や技能の名称などについて理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前への侵入を展開することで、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) サッカーの授業に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を援助しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	空いている場所に走り込み、シュートを打つことができるようにする。 【知識及び技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 準備 2 集合・整列・出席確認・挨拶 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 ・全体基礎練習 ・パス交換練習 5 本時のねらいと内容の確認 6 作戦の確認 7 簡易ゲーム (6 ゴール) 8 チームでの振り返り 9 集合・健康観察 10 整理運動 11 学習カード記入 (タブレット) 12 学習の振り返り (画面に映す) 13 まとめ 14 次時の予告 15 挨拶・片付け

第46回北部教育事務所秩父支所管内 中学校体育授業研究会

「球技（サッカー）」

1 授業について

- ・昨年度、コロナ禍のためあまり接触プレーを学習していないので、今年度は1年生時に学習するはずだった内容を重視して計画を立てた。
- ・男女一緒に作戦タイムを行うことで男女の良さが生かされた。男女別の試合になった時に、もっと赤マーカーや黄マーカーの意味を伝えながら展開できると良かった。活用について改善するべきだった。
- ・元気で明るく活動できた。しかし、ねらいを確認する場面では、全員が喋りすぎてよく聞こえなかったのも、もっとメリハリをつけさせるべきだった。
- ・もっと撮影者への指示をした方が良かった。
- ・外のスペースを使うことを学習させた。
- ・点を取る楽しさを味わうルール工夫を行った。
- ・特別支援学級在籍の生徒がいるので、全体基礎練習やパス交換、話し合いや試合の中で一緒に活動し、サポートをすることを重視して行った。
- ・技能面の助言など、より工夫できる点ややり方があれば教えて欲しい。

2 研究協議

- 『体育授業（球技）における効果的なICTの活用方法について』の研究協議を6グループに分かれ、本授業の『工夫されていた点』『各校で行っている授業展開の工夫』『各校で行っている体育授業（球技）における効果的なICTの活用方法についての工夫』を色分けし付箋にまとめグループ協議を行った。その後、話し合いの内容をグループごとにまとめ、代表者が発表した。

【本授業で工夫されていた点】

- ・活動量が多く、元気だった。
- ・すばやさがあり、規律がしっかりしていた。
- ・流れをよく把握しており、メリハリがあった。
- ・男女の仲の良さが分かる授業だった。ねらいを達成しようとグループの中で、一生懸命関わろうとするシーンがあった。
- ・各班の役割分担がしっかりしていて良かった。
- ・練習中や試合中のボールの管理がしっかりとされていた。
- ・ゴールの数や点数など、場の工夫が大変良かった。ゴールに番号が書かれているのも良かった。
- ・効果的な感覚づくりの運動を行うことで、技能が身に付いていた。
- ・視野を広く持てるような教材、教具の工夫が良かった。
- ・学級、学校全体での雰囲気作りが良い。疑問形式の声かけが効果的で良かった。男女共習（グルーピング）の工夫がされていたのが良かった。
- ・作戦ボードを使って、視覚的に分かりやすく工夫していた。
- ・掲示物が豊富で、分かりやすいものが多かった。

【改善点やもう少し工夫できる点】

- ・ねらいの2つがむずかしかった。もう少し落とし込めれば良かった。意識するのが難しい人もいると感じた。
- ・シュートが打てれば良いが、走り込めただけの人は達成できたのかできていないのか分かりづらかった。
- ・撮影した動画を見る場面の設定。いつ見るのか。
- ・タブレットを外で使うのが、心配という声もあった。
- ・ゴールにカバーをつけられるなら、つける方がいい。
- ・サイドチェンジの回数や、シュートした本数、作戦の確認など、タブレット内でもできるようにしても良い。
- ・掲示物の精選、撮影者の立ち位置。
- ・全員達成の課題、出来なかった子どもへの振り返りの工夫があると良かった。
- ・タブレットの使用時間。ICTと運動量の確保が今後も課題となる。

【各校で行っている実践例や活用の工夫例】

- ※『体育授業（球技）における効果的なICTの活用方法について』を話し合ったが、あまり工夫例が出てこない班があったので、各校のICTの活用方法を話し合った。

- ・球技で使用するものは、難しいという声が多かった。
- ・練習風景を撮影し、チームで観ている。
- ・ワークシートをタブレットにして、タブレットに直接書き込んでいる。
- ・生徒のやる気を引き出すような活用の仕方。
- ・学習カードの電子化。作戦ボードの電子化。
- ・クラスルームの活用。
- ・スキルチェック。
- ・事前と事後の使い方。
- ・見本の動画を見せる。良い動きをしている人の動画を見せる。
- ・振り返りで使用する。

3 指導講評

- ICT 推進のためのポイントは
 - ・①まずやってみる ②失敗を共有する ③ねばり強く続けること。
- 記録・整理・共有
 - ・次学年へ繋げる活用の仕方をする。
- 指導案をよく検討していただいた。指導案に入れて欲しいとお願いしたことをよく入れていただいた。男女の意識の差がよく分かる指導案になっていた。
 - ・実態の把握が出来ていた。→単元計画に確実に反映されていた。
- 教師の理想のゴールに自然に近づいていくような授業展開だった。
 - ・指導案も「こんな生徒にしたい」という思いがはっきりしていて、やっていくうちに子どもたちがいつの間にか上手くなっていくという環境になっているのが良い。
- 非常に、声が出ていて、活発で、子どもが楽しんでいるという印象だった。先生方も楽しんでいるのが良い。
- 男子がよく女子にアドバイスをしていた。感覚づくりの運動を男女一緒に、更に全員でおこなっていたため、人と関わらざるを得なかったのも、とても良かった。工夫されていた。
 - ・周囲と関わらなければいけない場面を意図的に作り出せていた。
- 作戦の選択が良い。(ゼロから作戦づくりをさせると実践までに時間がかかることがある)。
 - ・中学生でも、作戦は選択式でも良い。
- ねらいとまとめを正対させる。毎回意識して行っていくようにする。
 - ・まとめは子どもたちの言葉からまとめるのが理想である。
- ICTは『やってみる』という時期。積み上げていくことが必要なので、まずは、取り組んで欲しい。学習カードや動画をデジタル化して記録していき、成長が見えるようにする。
 - ・1時間→単元ごと→1年間を意識して積み上げていく。
- ヘディングやトラップは、ある程度教えていくべき。
- 本時の授業について
 - ・豊かな人間関係が見られた。高篠中学校の先生方が生徒を大切に、声かけをしていることが分かる授業だった。先生方と生徒の人間関係がしっかりしていて、共に創っている授業だった。
 - ・T1、T2の役割分担が明確になされていた。小さなことでも気付いたら称賛の声かけをしていたことが良い。運動量も豊富だった。
 - ・子どもたち同士でも称賛の声がとんでいて、大変良い雰囲気だった。小さなことでもいいので、褒めていくことを続ける。
 - ・小中で良い交流ができた。こういう機会を設けていただき、大変良かった。
 - ・ねらいを意識した授業展開となっていた。
 - ・ねらいの提示の仕方の工夫→やらされている体育にならないようにする。ねらいは、子どもから引き出して発表ができるとうい。前時の振り返りから導き出せると良い。
 - ・得点板があることで、生徒が勝ちにこだわるので、使っていて良かった。
 - ・指導と評価→AとCの生徒を探す。Cの生徒を伸ばす。最後の時間に、Cの生徒を「A」に引き上げるように指導して行って欲しい。
- 学習指導要領の全面实施について
 - ・何ができるようになるか→3つの柱 終末の振り返りを確実に行う。
 - ・何を学ぶか→授業内容を理解する。
 - ・どのように学ぶか→対話的・主体的で深い学びを意識する。
 - ・男女共習がP236にも書かれているので、これからは男女共習の場面を作ることを意識して欲しい。
 - ・何のためにICTを活用するのか明確にする必要がある。
 - ・進んで学習に取り組む態度を育てていけると良い。
 - ・運動好きな生徒の育成をお願いしたい。
 - ・動く楽しさ、集う楽しさ、分かる楽しさ、伸びる楽しさ→体育授業の四原則。

深谷市立花園中学校

単 元 名

- ・武 道 (柔 道) 第2学年
- ・球 技 (バレーボール) 第2学年

授 業 者

伊 月 友里恵
根 岸 竜 也

研究協議会

資質・能力の3つの柱をバランスよく育むことができる授業の工夫
～主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動の展開～

司 会 者

- ・第1分科会 柳 田 育 美 (熊谷市立富士見中学校)
- ・第2分科会 滝 沢 一 真 (深谷市立上柴中学校)

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事
深谷市教育委員会学校教育課指導主事

内 藤 将 智
阿久津 広 真
笛 場 敦 司

《活動の様子》



深谷市立花園中学校

単元名	武道(柔道)
指導者	伊月友里恵
単元目標	<p>(1) 伝統的な特性や成り立ちを理解し、技の名称や行い方を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることや、分担した役割を果たそうとしたり、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ったりできるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	取りは、けさ固めや横四方固めで相手を抑えることができるようにする。 【知識及び技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 集合・整列・挨拶・健康観察 3 本時のねらいの確認 4 準備運動、感覚づくりの運動 5 固め技の補強運動 6 技術の確認 7 固め技ゲーム 8 本時の振り返りとまとめ 9 整理運動・けがの確認・健康観察 10 次々の予告 11 挨拶、片付け

単元名	球技(バレーボール)
指導者	根岸竜也
単元目標	<p>(1) バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力を理解するとともに、ボールの操作に定位置に戻るなどの動きによって空いた場所の攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けた運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) バレーボールの学習に積極的に取り組むとともに、作戦などの話合いに参加し貢献したり、フェアプレイを守ったりして、仲間と助け合いながら健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	各ポジションの定位置に戻るができるようにする。 【知識及び技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列・挨拶・健康観察 2 前回の振り返り、本時のねらいの確認 3 準備運動 4 覚づくりの運動 5 位置に戻ってレシーブする練習 6 ゲーム 7 集合・整列・整理運動 8 健康観察 9 本時の振り返りとまとめ 10 次々の予告・挨拶

第46回北部教育事務所管内（大里地区）中学校体育授業研究会

第1分科会

「武道（柔道）」

1 授業について

- ・生徒も積極的に動き、スムーズに進めることができた。ポイントをおさえて、確認しながら行うことができた。
- ・昨年度はコロナで受け身までしか取り扱うことができなかつたため、本来の2年生の内容ではなかつた。3年生では連絡技を取り扱っていきたい。
- ・相手を崩す際の、「ハンドル回し」が難しかった。
- ・資料をもっと活用できれば、生徒同士の声かけがより活発になつたのではないかと考えた。
- ・特別支援学級や配慮が必要な生徒へのフォローが、もっとできればよかつた。

2 研究協議

『主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動の展開』

- ・生徒が活発で意欲的に取り組んでいた。
- ・帯での色分けや各班の活動範囲を『 』のシートを使って示すなど、教具の工夫がされていた。
- ・ICTの活用は、客観的に自分の動きを見ることができるので、話し合い活動の際に有効である。
- ・学習規律の確立がされていた。特に武道ということもあり、礼を重んじている姿勢は良かつた。
- ・生徒同士の距離が近くなる単元であるため、マスク着用の声かけをしつつも体調を気遣う声掛けも行っていった。
- ・慣れの運動が丁寧で、ケガ防止につながるものであつた。
- ・全てのグループが同時に行わなくてもよいのではないかと。時間をずらすことで、より安全に行え、ICTのチェックの時間などに充てられるのではないかと。
- ・協働の場面や生徒一人一人に役割を持たせることで、主体的に取り組む生徒を育てることができる。
- ・アドバイスカードなどを使用すると、生徒同士の対話が活発になる。
- ・教具の工夫や場の確保など、安全面が配慮されていた。
- ・運動量の多い内容で、生徒が満足している様子だつた。
- ・教員の声かけがきめ細やかで、生徒一人一人をよく見ていた。
- ・ICTを活用する際に、どこを見るのかというポイントを事前に伝えておくと良かつたのではないかと。

3 指導講評

- ・ICTを活用するとなると運動量が減ってしまうのではないかと懸念があるが、学習規律がしっかりしていれば、十分に運動量を確保することができる。今はICTを使っていく時代。教員が見るポイントを伝え、事前に知識を教えた上での活用が効果的である。
- ・生徒が撮つた動画は、評価の材料として事後に確認することも有効である。
- ・評価は「ABC」といった評価だけではなく、B→AやC→Bになるための手立てを教えたり、どうすれば目の前の生徒の技能が高まるのかを考えるのが教師本来のあるべき姿ではないかと。
- ・新学習指導要領では、「男女共習」を行っていくことを示していく。体力差などがあり、嫌厭しがちであるが、教え合い活動や感覚づくりの運動などできることから進めていけるのではないかと。
- ・学習規律が素晴らしかつた。「学習規律を徹底し楽しい授業」とされている。中には、学習規律を厳しく指導するから楽しくなくなってしまうという意見もあると言われるが、学習規律が徹底しているからこそ運動量が確保でき、生徒が楽しいと思える場面を多く作ることができるので必要。
- ・一方通行にするなど、生徒の安全面を考えていた。環境整備にさらに力を入れると良い。
- ・先生が生徒全員に声かけができていないのではないかとと思うほど、たくさんの声かけや称賛をしており、先生の関わり方が素晴らしかつた。指示も短く的確であり、生徒もわかりやすかつたと思う。

第2分科会

「球技（バレーボール）」

1 授業について

- ・昨年度は4・5時間の授業を行ったが、中々ラリーが続かなかったため、実態に合わせて授業づくりを行った。
- ・オーバーハンドパスが苦手な生徒が多く、アンダーハンドパスばかりになってしまった。しかし、アンダーハンドパスもミスしてしまうことが多く、中々つながらなかった。
- ・定位置のラリーでは、自分達の陣地でラリーをさせ、そのルールのままゲームに繋げた。
- ・相手コートへ返球するよりも、仲間同士でつなぐ方が難しかった。そのため、仲間とボールをつなぐことを主とした。返球回数も4回とすることで、仲間をつないでから返球することを意識させた。
- ・円陣パスでは、ボールと仲間に正対することを意識した。
- ・1バウンドOKにしたのは、ボールを追いかけられずラリーが続かないため、ルールを工夫した。

2 研究協議

『主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動の展開』

- ・ねらいに正対した練習内容であり、話し合い活動も活発に行われていた。
- ・タイマーの活用をして、授業の流れをスムーズにした方がよい。
- ・アンダーパスよりオーバーパスに重きを置いた方が、ラリーが続くのではないか。
- ・グループごとに課題を決めさせることで、活発な話し合いにつながる。
- ・前回の振り返りをする中で、前回の反省をチームの課題につなげることができていた。
- ・ホワイトボードに前回の課題が書かれているので、確認することができていた。
- ・ローテーションをして練習をした方がよい。(いつも同じ場所になってしまう)
- ・柔らかいボールが使われており、安全面の配慮がされていた。
- ・コート数を多くすることで、一人一人の活動量が多かった。
- ・つないだ数が得点というように、得点の工夫がされていた。
- ・1バウンドさせるなら、キャッチさせた方が正規のルールに繋げやすいのではないか。

3 指導講評

- ・前時の内容を確認してから、本時に繋げており良かった。生徒の意見をもっと吸い上げて、話ができると生徒の中に入りやすいのではないか。
- ・生徒自身が本時のねらいに対してどれだけ必要感を感じていたかがポイント。そこを抑えて、ねらいの設定ができると良い。
- ・感覚づくりの運動では、アンダーハンドパスばかりをしていた。意図的に組み込まないとオーバーハンドパスを取り入れないといけない。
- ・「定位置に戻る」ということは、ラリーが続くからこそ、定位置に戻る必要が出てくる。そこを抑えて、生徒へ伝えられると良かった。
- ・練習とゲームの内容が同じであった。ゲームであるならば、相手とのゲームをできると良かった。
- ・生徒が「楽しい」と思う授業づくり → 成功体験がある
⇒ラリーを続けることは「楽しい」こと
- ・「何でこれを今日行うのか」・・・「できていないから」 → 「だからこれをやる」と関連づけてあげると生徒も納得して、主体的に取り組むことができる。
- ・具体例を示すなど、生徒が動きをイメージできるような指導を心がける。
- ・運動が得意な生徒だけが「楽しい」と思うだけでないといけない。苦手な生徒も参加できるような授業づくりを行うことが大切。

神川町立神川中学校

単 元 名

- ・武 道 (柔 道) 第1学年
- ・武 道 (剣 道) 第1学年

授 業 者

- 森 友 里
- 小 林 正 彦
- 福 島 寛 之

研究協議会

- ・第1分科会 武 道 (柔 道)
- ・第2分科会 武 道 (剣 道)

「夢や志を持ち、学び愛の中で互いを高め合うことのできる生徒の育成」
～ユニット活動を中核とし、主体的で対話的な深い学びを追求した授業づくりをとおして～

司 会 者

- ・第1分科会 鈴 木 裕 也 (本庄市立児玉中学校)
- ・第2分科会 伊 藤 真 弥 (上里町立上里北学校)

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事	内 藤 将 智
埼玉県教育局北部教育事務所指導主事	阿久津 広 真
神川町教育委員会学務課指導主事	高 田 真 清

《活動の様子》



秩父市立高篠中学校

単元名	武道(柔道)
指導者	森 友里・小林 正彦
単元目標	<p>(1) 伝統的な特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解するとともに、基本的な動作や技を用いて簡易的な攻防を展開することができる。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えられることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることや、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に留意することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	相手の崩し方を覚えることができるようにする。 【知識及び技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 集合整列・挨拶・健康観察 3 前時の振り返り・本時のねらい 4 準備運動 5 感覚づくり運動 6 受け身 7 崩し 8 崩しのかかり練習 9 崩しの簡易試合 10 用具の片づけ 11 集合整列・整理運動・健康観察 12 学習のまとめと振り返り 13 次時の予告 14 挨拶・解散

単元名	武道(剣道)
指導者	福島 寛之
単元目標	<p>(1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、伝統的な考え方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本的動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易的な攻防ができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	基本打突の仕方と受け方では、面や胴の部位を打ったり受けたりすることができるようにする。 【知識及び技能】
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 集合整列・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 感覚づくり運動 5 ねらいの確認 6 構えと目付け 7 素振り 8 集合整列・整理運動・健康観察 9 学習のまとめと振り返り 10 次時の予告 11 挨拶・片付け

第46回児玉郡・本庄地区中学校体育授業研究会

第1分科会

「武道（剣道）」

1 授業について

- ・中学校の実態（全員が初めて）
- ・真剣に取り組める。アニメ（鬼滅の刃にあこがれ）
- ・胴がものたりない、面は形になってきている。今後は課題を見つけながら進めていく。

2 研究協議

「学習のねらいに向けて、互いを高め合うことのできる育成の工夫」

授業の振り返り（良かった点・・・○ 改善点・・・▲）

- ローテーションがスムーズで運動時間確保されていた。
- 学習規律が整っていてメリハリがあり活動時間の確保されていた。
- ICTの活用できている。
- グループ間の間隔が確保されていて安全面に配慮されている。
- ▲竹刀の置き方竹のとり方。
- ▲指導と評価の一体化。ポイントを明確にアドバイザーが生かす。正解がわからないため
- ▲ゴールの姿の動画再生。目指すべき的の明確化
- ▲打より、礼を相手がいないと出来ないから礼法を大切に。
- ▲運動量が少なかった
- ▲グループを男女一緒にしても良い
- ▲アドバイス等を相互に。手本に男子を。

3 指導講評

- ・県内に357校 264校柔道 63校剣道 5校相撲
- ・活動時間が多かった。規律良かった。見学の生徒アドバイスが良かった。
- ・授業初めに前までのポイントを振り返る。
- ・体育でどこまで求めるか。指導要領を中心に。剣道は中学で初だから基本としっかりと。
- ・男女共習は生涯学習の観点につながる。
- ・とりあえずれてみようというやり方はもったいない。どうせやるなら、自分の課題発見。初めに動画をみて自己分析。課題を見つけてから取り組む。
- ・初めに試合をさせてしまうのも一つの方法。
- ・何が良くて何が悪かったの？共通理解をはかる必要あり。
- ・深い学びとは、体育の見方考え方を働かせること。
- ・ICTで自分の動きを客観的にみる。
- ・県の課題は運動好きを増やすこと。
充実した授業にし、結果として体力が高まるという考え方が大切。
そのための4原則 動く、集う、わかる、伸びる
- ・事故防止の徹底。安全点検をしっかりと。

第2分科会

「武道（柔道）」

1 授業について

- ・崩しがイメージしやすいように動画やパワーポイントを作ったが、教員側の説明が多かった。
- ・簡易ゲームでは振り返りの時間を40秒にしたが短かったので増やした。タイマーの設定をスムーズに行うことで、授業もテンポよく行えたと思う。
- ・運動時間の確保

2 研究協議

「学習のねらいに向けて、互いを高め合うことのできる育成の工夫」

(1) 授業の振り返り（良かった点・・・○ 改善点・・・▲）

- カラー帯を使用することで、視覚的にわかりやすくグループ分けできた。
- 簡易試合ではお互いに声かけをしあったり、教え合い、アドバイスなどする場面が多くありよかった。
- 規律、礼法、よくできていた。
- 導入の動画、パワーポイントは分かりやすくよかった
- ICT機器の活用ができていた。いろいろな視点からアドバイスできていた
- 50分授業の中で、着替え・片付けまでできてよかった
- ▲「支持基底面」のラミネートが班員分あればよかった。
- ▲タブレットを固定するのではなく、いろいろな角度から撮影。
- ▲振り返りタイムでは自分の動画しかみていなかったのでみんなで共有しアドバイスし合えたらよかった。

3 指導講評

- ・集合、整列、挨拶など規律面が良かった。
- ・「本時のねらい」が掲示物として明確に表示されていた。
- ・準備運動 声もしっかりでていた。ポイントを押さえ指導していた。
- ・感覚づくりの運動で、帯やフラフープを使用していたのはよかったが、道具を取りに行く際密になっていたから道具を分散させるなど、密集しない工夫を。時間のマネジメント
- ・動画を見ることによって、イメージをもつことができた。・・・主体的な学び何をすれば課題にせまることができるか。ゴールを明確に。
- ・教員が良く褒めていた。
できて当たり前と思いがちだが、指示していることに対しては必ず評価をする。
- ・ねらいと見通しについて今日やるべきことが明確になっていた 掲示物良い
- ・感覚づくり・・・主運動につながっていた。
- ・まとめ、振り返りまできちんと行う。
- ・先生と生徒の発言・言葉をつかってまとめていく
- ・今日学習したことができたかどうかカードに記入するのが振り返り
- ・指導と評価の一体化
- ・指示したことに関しては必ず評価を、できたことは褒める→評価
技能・・・授業を通してできるようになったことを評価

行田市立西中学校

単 元 名

・陸上競技（長距離走）

授 業 者

大 塚 真 利 恵

馬 場 洋 平

研究主題

「運動好きの生徒を増やす、活力あふれる体育授業の実践」

～自発的に取り組み、課題と向き合える生徒の育成～

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当指導主事

行田市教育委員会学校教育課学校教育課指導主事兼主幹

内 藤 将 智

木 下 隆 弘

亀 山 友 宏

《活動の様子》



倉庫

今日のながれ

- 今日の「学習」について確認する
- 自分の「挑戦」を決めて、ノートとホワイトボードに記入する (3分間)
- 1人1人の「挑戦」をチームで共有する (2分間)
- チームの「目標」と走順を決める (1分間)
- インターバル走 (1分間)
- 整理運動 (3分間)
- 仲間の「挑戦」について振り返る
- 集合・学習のまとめ・挨拶・片付け

学習9：仲間の挑戦を認めよう！(インターバル走)

3000m 記録一覧

タイム	200m&500m 記録者	タイム	200m&500m 記録者
世界記録 男子→7分29秒	29秒	女子→8分04秒	32秒
日本記録 男子→7分29秒	32秒	女子→8分04秒	34秒
中学記録 男子→8分17秒	33秒	女子→8分12秒	35秒
高校記録 男子→8分50秒	35秒	女子→9分22秒	37秒

※メンバー名

記録	記録者	タイム
走		
走		
走		
走		

※光らした時間の挑戦者

距離(m)	通過タイム
300m	〇〇 2△
600m	〇〇 2△
900m	〇〇 2△
1200m	〇〇 2△
1500m	〇〇 2△
1800m	〇〇 2△
2100m	〇〇 2△
2400m	〇〇 2△
2700m	〇〇 2△
3000m	〇〇 2△

今日の授業で学んだこと



行田市立西中学校

単 元 名	陸上競技（長距離走）
指 導 者	大 塚 真 利 恵（T1）・馬 場 洋 平（T2）
単 元 目 標	<p>○長距離走の特性や技術の名称などを理解するとともに、ペースを守って走ることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力】</p> <p>○長距離走に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】
授 業 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 集合・健康観察・挨拶 3 準備運動 4 3分間走 5 ねらいの確認 6 課題解決学習の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・移動（250mトラック・200mトラック・体育館） ・練習の行い方の確認 ・役割分担と目標設定 7 課題解決学習 <ol style="list-style-type: none"> (1) ペース走（200mトラック） (2) ビルドアップ走（250mトラック） (3) インターバル走（体育館・60mトラック） 8 整理運動・健康観察 9 学習の振り返りとまとめ 10 次時の予告 11 挨拶・片付け

第46回東部教育事務所管内（北埼玉地区）中学校体育授業研究会

1 授業について

- ・長距離走は辛いですが、前向きに授業に取り組む事ができたり、少しでも長距離走が好きになったりする授業になるよう考え、工夫してきました。
- ・本時の授業は仲間がいることによって頑張れるようにしたかった。
→自分が走っていない時をどうするのか。
→仲間の挑戦を見ているか。
- ・主運動の説明が長くなってしまい、振り返りの時間が短くなってしまった。

2 研究協議（感想発表）

- ・授業規律がしっかりとしていて、返事ができていた。
- ・仲間の頑張りをよく応援していた。また、仲間と一緒に挑戦していた。
- ・掲示物が多く準備されていた。
- ・活気、勢いのある授業だった。
- ・生徒も教員もポイントをおさえて声掛けをしていた。
- ・長距離走は生徒にとって辛い授業だが、前向きに取り組んでいる生徒が多かった。
- ・「挑戦」は評価するとするのなら、思考力、判断力、表現力の方ではないか。

3 指導講評

- ・学習規律が素晴らしく、あいさつ、返事がよくできていた。
- ・導入部分では、二人の教師の役割がはっきりしていて、生徒の変化を積極的に声かけていた。
- ・3分間走はフォームチェックだけではなく、個人の記録を録らせても良いのではないかと。自分の記録を確認することで、その日の自分の調子や体力の変化が確認できる。
- ・展開ではチームで記録向上を目指す課題解決学習になっていた。チームで行うことで自分も役に立てているという自己有用感、達成感に繋がっていく。
- ・本時の課題を達成させる（達成感を味わわせる）ことで、長距離走を好きになる授業を展開して行ってほしい。
- ・学習ノートは言葉や文章にこだわらなくてよい。書いているのではなく、発見できているかで評価をする。また、文章の量は関係ない。たくさん書けることを目指さなくてよい。
- ・8 本時の学習と指導 (1)ねらい の書き方は、「～することができるようにする。」と書く。
- ・整理では全員がねらいにそった振り返りができるようにする。
- ・「挑戦」は記録や順位に挑戦することである。
- ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦をみんなで認め合う授業を行う。
- ・仲間の意識を低下させしめる働きかけや声掛けはC評価になる。
- ・毎時間ねらいが提示されているか？二人の教員が本時のねらいを共通認識しているか？確認してほしい。
- ・生徒に対しての声掛けは、判断のめやすを作って、二人の教員で共有しておく。
- ・態度はすぐに身に着くものではない。今日C評価の生徒であっても徐々にB→Aと上がっていくかもしれない。その後も観察を続け、評価をつけていく。
- ・埼玉県の課題は、新体力テストの記録は良いが、運動嫌いな生徒の割合が高いことである。運動の特性に触れた楽しさや喜びを味わわせる授業を行ってほしい。

三郷市立瑞穂中学校

単 元 名

- ・陸上競技（短距離走・リレー）

授 業 者

羽 鳥 紗 矢
石 川 将 悟

研究協議会

○全体協議

〔陸上競技(短距離走・リレー)における ICT の活用や男女共修・混合について〕

- ・授業者反省
- ・質疑応答、自校での取組等

司 会 者

津久井 望 （八潮市立八條中学校）

指導・助言者

埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事

内 藤 将 智

《活動の様子》



三郷市立瑞穂中学校

単元名	陸上競技（短距離走・リレー）
指導者	羽鳥紗矢・石川将悟
単元目標	<p>(1) 短距離走・リレーの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力について理解するとともに、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせることができるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>(2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3) 短距離走・リレーに積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を守ろうとすること、一人一人に応じた課題や挑戦を認めようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	<p>次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができるようにする。 【知識及び技能】</p>
授業内容	<p>導入（10分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用具の準備 2 出欠確認・挨拶・健康観察 3 動的ストレッチ 4 個人スキルドリル 5 前時の振り返り <p>展開（30分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 本時のねらいと内容の確認 7 チーム練習 8 記録会 <p>まとめ（10分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 整理運動 10 集合・整列 11 学習の振り返り・まとめ 12 次時の予告 13 挨拶・解散

全体会・研究協議

1 授業について

- ・タブレットの活用（動画撮影・共有、エントリー）
- ・1つのチームをAとBに分けて兄弟チームにして実施。運動量に差はあるが、現状はこの形が実態に合っていた。
- ・アップ、チーム練習、タブレット、リレー、振り返りとやるのがたくさんあって、時間配分が難しい。
- ・課題やねらいを掲示していても、課題と振り返りが一致していない生徒もいるので、振り返りの仕方今後、指導が必要。

2 研究協議

- ・教師の指示が明確で、生徒も一生懸命に活動していた。
- ・男女混合にした際の生徒の反応はどうだったか。→悪くなかった。すぐスムーズに活動できた。
- ・タブレットを活用してみたの良さはあったか。→データや動画が残っているので、教師が評価をする際に役に立つ。生徒も、後で振り返ることができる。
- ・バトンパスの評価について、2人の走力や技能に差がある場合の評価の仕方をどうするか。→前回のタイムよりもどれくらい縮めることができたかに重きをおいて、授業を進めている。
- ・本時は多くの生徒がオーバーハンドパスであったが、今後はアンダーハンドパスなどは学習する予定はあるか。→本時までに様々なバトンパスを行ってきたが、本時に生徒たちが選んだパスがオーバーハンドパスであった。

3 指導講評

- ・学習規律が徹底されている。挨拶、返事が素晴らしい。移動も素早く無駄な時間がない。
- ・教師の関わり方について、2人の先生の役割分担がされており、授業の流れが良かった。
- ・生徒の名前と良い点をたくさん声掛けができていた。
- ・生徒が豊かな人間関係の中で学び合っている。笑顔で励まし合って活動に取り組んでいた。
- ・「単元の計画」の部分・・・他の領域や種目とのバランスをよく考えて、扱う時間を検討すること。
- ・「指導と評価の計画」の部分・・・ねらいと評価計画の整合性を合わせること。
- ・タブレットの活用について、活動の低下は招かないように。タブレットが必要な場面かどうか検討する。
- ・男女混合リレーについて、学習指導要領には基本的には男女共修と書かれている。領域や種目によっては配慮する。生涯スポーツの観点からも男女共修を。
- ・評価について、本時のバトンパスは、渡す側の評価なのか、渡せる側の評価なのか明確にして、指導したり評価したりする。
- ・活動に必要感を持たせる。例えば、まずリレーのタイムをとる。（やってみる）→タイムを縮めるためにはバトンパスが有効。→バトンパスの練習→最後にもう一度リレーのタイムをとる。（練習の成果を試す。）

さいたま市立三橋中学校

単 元 名

授 業 者

<研究授業>

- ・「器械運動」(マット運動)

宇 井 美 咲

植 山 和 洋

<公開授業>

- ・「器械運動」(跳び箱)

山 中 英 弥

授業の振り返り

「生徒の主体的な学び合いや教え合いを引き出すための効果的な指導方法の工夫について」

司 会 者

佐 藤 拓 哉 (さいたま市立七里中学校)

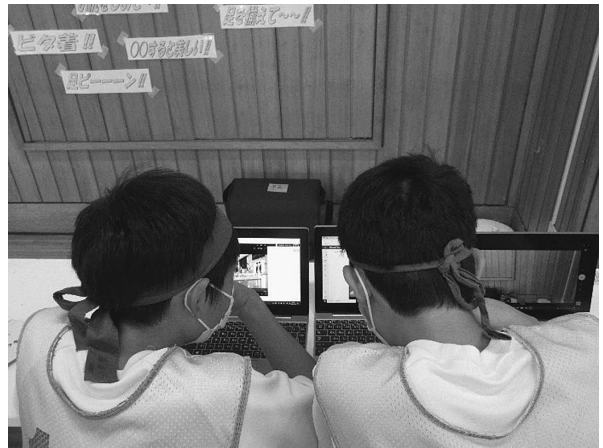
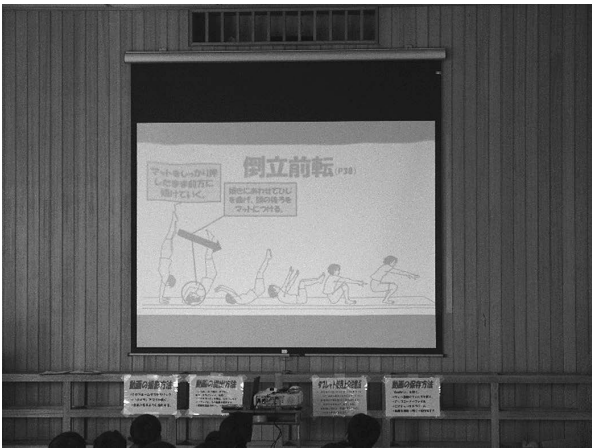
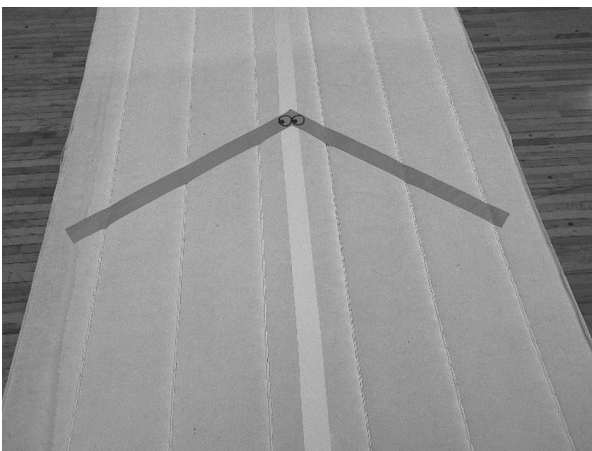
指導・助言者

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事
埼玉県教育局県立学校部保健体育課指導主事兼
埼玉県中学校体育連盟理事長

笛 田 透

猿 橋 武 司

《活動の様子》



さいたま市立三橋中学校

単元名	「器械運動」(マット運動)
指導者	宇井美咲(うい みさき)・植山和洋(うえやま かずひろ)
単元目標	<p>○マット運動の技ができる楽しさや喜びを味わい、その特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技がよりよくできるようにする。 【知識及び技能】</p> <p>○技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、課題の解決に向けて考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力】</p> <p>○技ができる楽しさや喜びを味わい、学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることや一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
本時の目標	<p>○提供された練習から自己の課題に応じて技の習得に適した練習を選び、仲間に伝えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力】</p>
授業内容	<p>～ブリーフィング～</p> <p>◎導入(10分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集合、挨拶、健康観察 2 前時の振り返りと本時のねらいの確認 3 準備体操・ストレッチ 4 基礎感覚づくり(4種類)各20秒ずつ 5 基本的な技の練習 <p>◎展開(30分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 選択した技の練習 <p>＜①チャレンジエリア＞ ＜②スキルアップエリア＞ ＜③アナライズエリア＞</p> <p>◎整理(10分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 整理運動・ストレッチ 8 学習の振り返りとまとめ 9 次時の予告 10 挨拶・片付け <p>～ブリーフィング～</p>

第46回 中学校保健体育授業研究会

分科会

「生徒の主体的な学び合いや教え合いを引き出すための効果的な指導方法の工夫」

1 授業について

- ・ICT機器を活用することで、生徒自らが課題を見付け、習得した知識や技能の活用を目指した。また、仲間の動きを見て、感じたことや気付いたことを相手に伝える力も「表現力」と捉え、自己表現ができるようにすることを目指した。
- ・3つのエリアを設定することで、技に取り組む時間と、分析する時間を明確に分けることができるようにした。また、運動量確保のために、分析の時間をできるだけ短くできるように設定した。
- ・技の練習の前後でグループミーティングを実施することで、仲間の課題を共有し、活動時に具体的な声掛けができるようになった。また、次時につながる振り返りができるようになった。
- ・授業の振り返りの場面で、本時のねらいを達成することができたかについての確認ができなかったことが反省点である。

2 研究協議（感想発表）

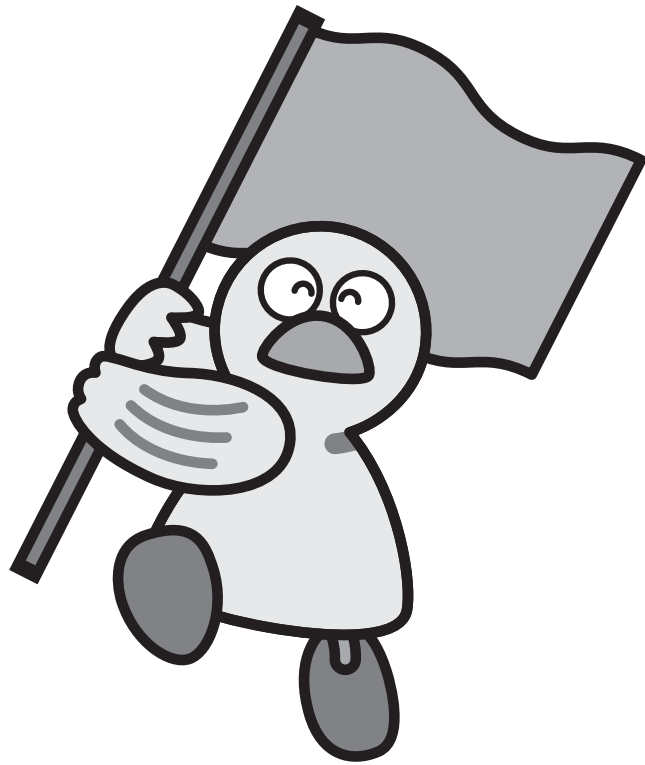
- ・少人数でグループを編成しており、グループ内で自然と教え合う場面がとて多かった。
- ・掲示物に声掛けワードの例が貼ってあり、具体的なアドバイスにつながっていた。
- ・タイムシフトカメラは、自己の課題を発見することに加え、仲間のアドバイスについて動きで理解することにも効果的であった。
- ・今回の授業は2年生だったが、1年生でICTを活用する場合には、技をしぼって、つまずきポイントを明確にするなどの手立てが必要ではないか。

3 指導講評

- ・指導と評価の計画では、逆算方式で作成すると、単元全体のブレがなくなる。単元を終えたときに、生徒たちにどのようになってほしいか、先生方のゴールイメージと生徒たちのゴールイメージを共有することが大切である。
- ・授業規律がしっかりとしており、流れの説明についても無駄がなく的確であった。
- ・3つのエリアに分け、それぞれの特性を生かせる配置になっており、大変素晴らしかった。今後、単元終盤では、各エリアの配置数を変動させても良いのではないか。
- ・各試技のあと、ポーズまでしっかり取れるとさらに良くなる。
- ・本時は思考・判断・表現を見取る授業だが、振り返りが技能面だけになっていたのも、生徒の発表及び教師の振り返りにしても、ねらいに即した形にできると良い。
- ・ICTの活用は、手段であって、目的ではない。運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、活動そのものの低下を招かないよう留意することが大切である。

學習指導案

武 道 (劍 道)



保健体育科学習指導案

令和3年11月9日(火) 第5校時 体育館
 第1学年2・3組 男子24名 女子10名 計34名
 神川町立神川中学校 教諭 福島 寛之

1 単元名 「武道」(剣道)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

剣道は、竹刀を使って基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「有効打突」を目指して相手の構えを崩し、勝敗を競い合う運動である。また、剣道は、「礼に始まり礼に終わる」と言われているように、特に礼儀作法を重んじ、厳格に執り行うものであり、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、積極的に取り組むことで、伝統的な考え方を理解し、相手を尊重する態度を育成することができる運動である。

(2) 生徒からみた特性

剣道の楽しさや喜びを感じる要因	剣道を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> ・基本の打突が打てたとき ・相手から一本取れたとき ・相手の攻撃をかわせたとき ・礼法ができたとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に打たれたとき ・防具で動きが制限されるとき ・打たれる恐怖心 ・防具特有のにおい

3 生徒の実態

(1) 知識及び技能

全員が、剣道の経験はなく、竹刀や防具を初めて使用する生徒が多いため、剣道特有の打つという動作に慣れていない生徒が多い。また、どんなタイミングで打つのか、相手との間合(距離)や間(時間)といった特性を理解していない生徒が多い。

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

毎時間の学習カードの成果と課題を生かして、話し合いを行える生徒が多い。ICTを使用して、自己の動きを確認したり、相手にアドバイスを送る姿が見られる。

(3) 学びに向かう力, 人間性等

有効打突の定義を理解することはできるが、実践することに困難を抱える状況がある。全体的に素直で明るい生徒が多く意欲的に取り組むことができる。また、相手を尊重し、安全に気を付けながら授業を行おうとする生徒が多い。一方で、身体的な痛みから、積極的に活動が行えない生徒もいる。

【意識調査の結果から】

質問1 体育の授業は好きですか？

回答	好き	どちらかというとき好き	どちらかというとき嫌い	嫌い
男子	12人	7人	0人	5人
女子	5人	3人	0人	2人

質問2 武道(剣道)の学習でどのようなことができるようになりたいですか。

回答	打ち方を身に付けたい(20名) 竹刀を使った守り方を身に付けたい(2名) 防具の正しい付け方を身に付けたい(2名) 礼儀や日本の文化を知りたい(10名)
----	---

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

基本的な技能の習得と防具の着脱を正しく、短時間でできるようにする。そして、基礎・基本の徹底を図りながら応用的な技能を身に付けさせる。

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

毎時間教わることを活かした上で、自己や相手、仲間と共に、気づき、理解し、工夫することで、課題の発見や解決などができるようにする。

(3) 学びに向かう力, 人間性等

生徒が繰り返し活動に取り組めるよう、教具を工夫したり、ルールを簡素化したりする。簡易的な試合の際に審判役の生徒は勝敗を判定するだけではなく、つまずきの改善やよりよい動きになるように助言ができるようにする。また、礼法や所作、安全面などの観点においても、相互が理解できるようにする。

5 学校研究課題との関連

- (1) 研究主題「夢や志を持ち、学び愛の中で互いを高め合うことのできる生徒の育成」
 ～ユニット活動を中核とし、主体的で対話的な深い学びを追求した授業づくりをとおして～
- (2) 授業との関連
 本授業では、主体的で対話的な深い学びを意識した授業の実現のため、グループ（ユニット）での練習を取り入れ、ICTを活用しながらアドバイスをし合う活動を取り入れた。

6 単元の目標

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、伝統的な考え方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本的動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易的な攻防ができるようにする。 <知識及び技能>
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取組方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) 剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。 <学びに向かう力、人間力等>

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①対人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②剣道の技には継承があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能</p> <p>③体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。</p> <p>④基本打突の仕方と受け方では、面や胴や小手の部位を打ったり受けたることができる。</p> <p>⑤最初の小手打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つことができる。(小手一面)</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>③練習の場面で、仲間の伝統的な所作等のよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p>	<p>①用具等の準備や後片付け、審判などの分担した役割を果たそうとしている。</p> <p>②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。</p> <p>③相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。</p> <p>④積極的に、活動に取り組もうとしている。</p>

8 単元の計画

(1) 領域の取り上げ方

学年	柔道	剣道
第1学年	10時間	10時間
第2学年	10時間	10時間
第3学年	15時間	15時間

※本校では、1年次に武道（柔道・剣道）より1種目を選択し、3年間同種目を履修する。

(2) 領域の内容（運動種目）の取り上げ方

学年	教材	目指す動き
1	柔道	受け身(後ろ・横)を確実にできるようにし、寝技を相手にかけることができる。
	剣道	防具の着脱と竹刀の持ち方・面・小手・胴の打ち方ができる。
2	柔道	受け身・寝技の反復練習、立ち技をかけることができる。
	剣道	面・小手・胴の反復練習と、しかけ技・応じ技を実戦できる。
3	柔道	受け身・寝技・立ち技・連絡技の反復練習と簡易試合ができる。
	剣道	引き技、応じ技を実践できる。

(3) 指導と評価の計画 本時は4時(10時間扱い)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	我が国固有の文化を、言ったり書き出したりして見よう。	相手の動きに、応じて歩み足や送り足をききよう。	技のポイントについて、具体例を挙げてみよう。	面や胴や小手の部位を打つたり受けたらできるようにしよう。	仲間の課題や出来映えを伝えよう。	自己の課題に、応じた練習方法を、選んで実践しよう。	相手が対応したとき、隙ができた面を打とう。(小手一面)	一人一人の、違いに、応じた課題や挑戦を認めよう。	仲間の伝統的ない取組を見付け、他者に伝えよう。	準備や後片付け、審判などの役割を、果たそう。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 特性や約束事、安全な学習の仕方 役割分担や準備、片付けの仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 基本動作(構え、目付、体さばき、踏み込み動作) 	<ul style="list-style-type: none"> 防具の装着の仕方 隙の打ち方 	<ul style="list-style-type: none"> 構えと納め方 打ち方と打たせ方 	<ul style="list-style-type: none"> 正面、小手、胴の打たせ方 段階的な打ち方 	<ul style="list-style-type: none"> 有効打突の条件 約束練習の行い方 	<ul style="list-style-type: none"> 連続技の打ち方 連続技の打たせ方 	<ul style="list-style-type: none"> しかけ技 	<ul style="list-style-type: none"> 応じ技 	<ul style="list-style-type: none"> まとめの試合 フェアープレイ
学習過程	1 特性や約束事の確認 2 剣道の歴史 <ul style="list-style-type: none"> ・ 剣、鎧、刀 3 剣道の特性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 剣道用具の確認 ・ 竹刀の名称 4 礼法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立礼 ・ 座礼 5 剣道体験 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボール打ち ・ 新聞きり 5 学習の振り返りとまとめ 6 次回の予告 7 挨拶・片付け	1 用具の準備 2 集合・挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察 3 準備運動 4 基本動作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然体 ・ 体さばき ・ 送り足 ・ すり足 ・ 踏み込み足 5 竹刀の安全な使い方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 構え方 6 素振り <ul style="list-style-type: none"> ・ 正面、胴 ・ 斜め振り 7 装着 <ul style="list-style-type: none"> ・ 胴、垂 	6 防具の装着 <ul style="list-style-type: none"> ・ 置き方 7 打たせ方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正面 ・ 小手 ・ 胴 ※隙の与え方のタイミン グや体さばきなどで有効打突になることを理解	6 構えと目付け <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人組 ・ 構え方と納め方 ・ 素振り 7 打ち方と打たせ方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 打突部分の確認 ・ 段階的な打突 ※ICTの活用(動きの確認)	6 段階的な打たせ方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正面 ・ 小手 ・ 胴 7 約束練習 ※隙の与え方のタイミン グや体さばきなどで有効打突になることを理解	6 既習練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正面 ・ 小手 ・ 胴 7 約束練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技の出来映えを競う判定練習 ※有効打突の条件の確認 	6 連続技 <ul style="list-style-type: none"> ・ 打ち方 ・ 打たせ方 7 約束練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技の出来映えを競う判定練習 ※有効打突の条件の確認 	6 しかけ技 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑢ぜり合い → 引き合い → 引き合い 7 約束練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技の出来映えを競う判定練習 ※有効打突の条件の確認 	6 応じ技 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体を右にさばく、面抜き ・ 胴 ・ 胴の判定 7 約束練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技の出来映えを競う判定練習 ※有効打突の条件の確認 	6 約束練習 ※グループごとに良い点と改善点を確認しよう 7 試合 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボイーント制の試合 8 集合・整列・整理運動・健康観察 9 学習の振り返りとまとめ 10 単元の成果の確認、次年度の整理 11 あいさつ
評価の計画	知・技 ①	③	②	④	①	②	⑤	②	③	①
評価	思・判・表									
計画	態 ③							②		
計画	方法	観察・カード	観察・カード	観察	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード
計画	場面	2	4, 5	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	7




9 本時の学習と指導（4/10時）

(1) ねらい

基本打突の仕方と受け方では、面や胴の部位を打ったり受けたりすることができるようにする。
 〈知識及び技能〉

(2) 準備 竹刀、防具、学習カード、タブレット、タイマー、プロジェクター

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点等（○指導 ◆評価規準）
導入 10分	1 用具の準備 2 集合・整列・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 感覚づくり運動 ・送り足、すり足 5 ねらいの確認	○正しく素早く防具を着装させる。 ○集合・整列の仕方、集合時の姿勢、挨拶について必要に応じて指導し、徹底する。 ○健康観察を通して、体調不良・見学者を確認し活動を指示する。 ○今までの学習を振り返り本時の課題を確認する。 ○一人一人が声を出し、体操やストレッチ等でけがを予防する。 ○後足が残らないように素早く引き付けをする。 ○正面、胴の基本となる技のポイントを確認する。 ○学習カード等で前時を振り返り、本時のねらいとの関連を図る。
面や胴の部位を打ったり受けたりできるようにしよう。		
展開 30分	6 構えと目付け ・中段の構えと目付け（二人組）  ・構え方と納め方（蹲踞）  ・素振り 7 打ち方と打たせ方 ・打突部位の確認  ・約束練習 ・4人グループの練習 ~ルール~ 4人グループ練習 ①VS② ①が元立ち ②がかかる者 ③動画撮影 ④アドバイザー ※時間でローテーションしながら行う 30秒 練習 / 25秒 次の試合の準備 4回のローテーション ※追っかけ再生で動画撮影をし、動画撮影の際に自分の動きの振り返りを行う	○教師（生徒）が手本を見せる。 ○主体的な意見交換をして、動きのイメージが持てるようにする。 ○相手と正対し目を合わせる、気を合わせることを基本的な考え方であることを理解できるようにする。 ○ICT で自分の動画を見て、振りかぶりが小さく剣先が両拳の高さより下がらないようにする。また、正しい構えになっているか確認できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ◆基本打突の仕方と受け方では、面や胴の部位を打ったり受けたりすることができる。 （観察）【知識・技能】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> △努力を要すると判断される状況（C）の徒への指導の手立て ・静止画などを利用することで、正しい打ち方、打たせ方の感覚をつかめるようにする。 ◎十分満足できると判断される状況（A）の生徒の具体的な姿 ・動画で自分の動きを観察し、体さばきなどの基本動作を行うことができる。 </div> ○学習者用タブレット等で自己の動きを撮影できるようにする。 ○正面、胴の有効打突を確認し、打ち方と打たせ方を学べるようにする。
整理 10分	8 集合・整理運動・健康観察 9 学習のまとめと振り返り 10 次時の予告 11 挨拶・片付け	○まとまって行うようにする。 ○振り返りは学習カードを活用する。 ○発表は、数名の生徒を指名する。 ○生徒の言葉をつなげ、ねらいに正対したキーワード等を用いてまとめる。 ○次回の見通しがもてるように説明する。 ○大きな声で挨拶し、協力して片付けを行うようにする。

編集にあたり

先ず以て、授業を提供していただきました各学校の校長先生をはじめとする先生方、懇切丁寧な御指導をいただきました県教育局県立学校部保健体育課及びさいたま市教育委員会学校教育指導1課並びに各教育事務所、県立総合教育センター、関係の各市町村教育委員会の先生方に心より感謝申し上げます。

今年度で第46回になります中学校体育授業研究会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、人数制限をするなど工夫し、県内10校全てで開催することができました。公開された授業については、各地区の研究常任委員が全ての学習指導案及び学習資料を保管しております。また、県中学校体育連盟事務局HPにもそれらの資料等が閲覧できるよう保管しておりますので、是非御活用ください。

今年度より、実施した地区の指導案については、県中体連ホームページに掲載しておりますので、この「第46回中学校体育授業研究会」のまとめとともに十分に御活用いただき、本県中学校体育の課題である「体力向上」の推進にさらに努めていただきたいと思います。

保健体育科の指導は「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことを目指し、心と体をより一体としてとらえ、体育と保健を一層関連させて指導することが重要であります。今後も学習指導要領の趣旨を踏まえながら、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」について相互に関連させ、生徒のさらなる意欲向上のために研究を進めていただき、本誌がその一助としていただけたら幸いです。

----- 問い合わせ先 -----

埼玉県中学校体育連盟 事務局

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-5-1

埼玉県県民健康センター内

T E L 048-822-8876

F A X 048-822-0281

E-mail sai-chuutairen.go-go@leaf.ocn.ne.jp